

要人櫓台石垣の復旧

飯田丸五階櫓の下に位置する要人櫓台石垣は、令和2年(2020)10月に解体調査を終え、令和3年(2021)5月に積み直しを開始しました。積み直しは平成28年熊本地震で生じた石垣の変状を修正しながら、文化財修理の経験がある石工が1つつつ石を積み上げていく難しい作業です。石垣の裏込めも手作業で復旧しています。解体した石材はほとんどが再利用でき、元の位置に積み直すことができました。令和4年度からは飯田丸五階櫓台の石垣の積み直しを行う予定です。



要人櫓台石垣遠景 (令和3年6月21日)



積み直し状況 (令和3年6月25日)



裏込め締り締め状況 (令和3年6月24日)

熊本地震における熊本城の被災状況

熊本城全体の石垣 : 973面、約79,000㎡
特別史跡熊本城跡の土地面積 : 約512,000㎡

平成28年4月16日 1時25分「本震 M7.3」

※前震での被害を含む

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・膨らみ・緩み 517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600㎡ (全体の29.9%) (うち崩落約8,200㎡ (全体の10.3%))
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345㎡
便益施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など



『復興熊本城』別冊 天守閣完全復旧記念 熊本城天守閣常設展示図録 書店にて発売中!

平成28年熊本地震によって被害を受けた天守閣は、令和3年(2021)3月に完全復旧し、内部公開が始まりました。リニューアルした天守閣内部の展示解説を収録して刊行した『熊本城天守閣常設展示図録』は、築城から現在までの熊本城と天守のあゆみが分かる1冊となっています。

熊本県立美術館 本館

細川コレクション よくわかる「工芸」のみかた 細川家の古美術鑑賞「入門編」(9月23日～12月24日)

一見わかりにくい「工芸」作品の基本的な鑑賞方法を、細川家伝来の美術品を通じて紹介。甲冑、調度、能面など、様々な分野の工芸品の用途や装飾技法を解説し、その魅力を探ります。



「備前」(十八世紀) 三日月八郎兜(複製) 熊本県立美術館寄託

◆その他下半期の展覧会

- ・エビハラがいた時代：1945-1976 (2月25日～3月30日)
- ・美術館コレクション 春を奏ぐ(1月8日～3月13日)
- ・細川コレクション 細川コレクションのあれこれ(1月8日～3月21日)

熊本市中心区二の丸2番
096-352-2111

中止・変更の可能性がございます。ご来館前にホームページをご確認ください。



熊本城ミュージアム わくわく座

大好評! 熊本城VR(バーチャルリアリティ) 熊本城の見どころをスタッフがライブ解説!

わくわく座一押しコンテンツ、「熊本城VR」。江戸時代と被災前の熊本城の姿を大迫力の映像で再現し、石垣の迫力や城の役割を臨場感たっぷりに体感できます。このVRを使った、スタッフのライブ解説も必見! 熊本城特別見学通路の見どころや、復旧の最新情報を紹介します。お城見学とあわせてぜひご覧ください。



期間：毎日上映
料金：入館料(大人300円、子ども(小・中学生)100円)

お得：共通入園券がオススメです

- 2館共通入園券(熊本城・わくわく座)
(大人850円、子ども(小・中学生)300円)
- 3館共通入園券(熊本城・わくわく座・熊本博物館)
(大人1100円、子ども(小・中学生)400円)

熊本市中心区二の丸1-1-1
096-288-5600

開館時間など詳細はホームページまで



熊本博物館 冬季企画展

能楽伝承 - 熊本の能文化 -

(12月18日(土)～2月13日(日))
熊本の能文化の豊かさを示す、古文書・能道具などを展示します。



翁図(中村家文書 熊本博物館寄託)

熊本市中心区古京町3-2
096-324-3500

開館時間など詳細はホームページまで



熊本城

～復興に向けて～

令和3年度 秋冬号



※施設の臨時休館や開催を変更する場合がございます。詳細はお出かけ前にご確認ください。

←新型コロナウイルス感染症の影響により公開を変更する場合がございます。最新情報は熊本城特別公開ホームページをご覧ください。

平左衛門丸（宇土櫓続櫓）

平左衛門丸西面の宇土櫓続櫓下石垣の修理設計に必要な情報を得るため、発掘調査を行いました。調査では平成28年熊本地震の影響（地割れ）を確認しただけでなく、明治時代の大規模な埋土、それ以前の平左衛門丸造成に関わる版築状の盛土等を確認しました。今後はこれらの調査成果を基に復旧工事を行う予定です。



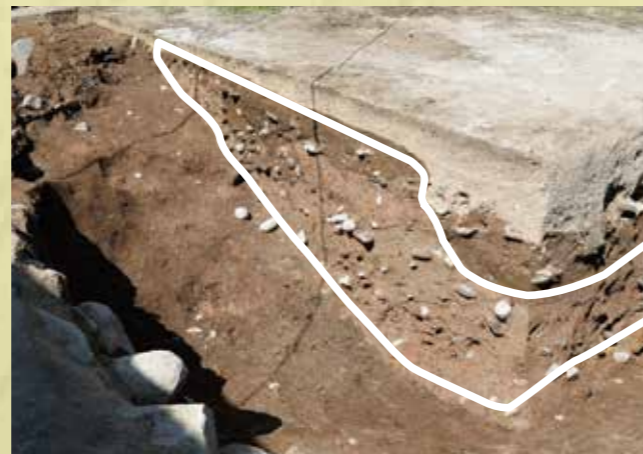
平左衛門丸発掘調査の様子



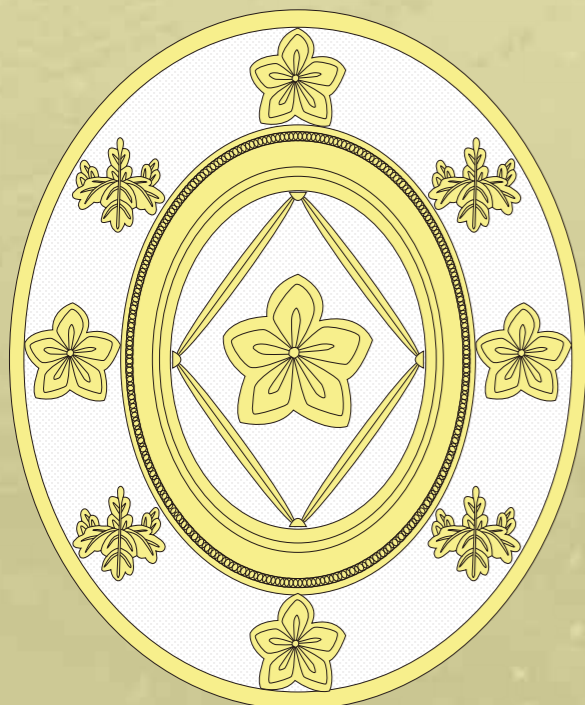
平左衛門丸造成時の版築状盛土（白枠部分）



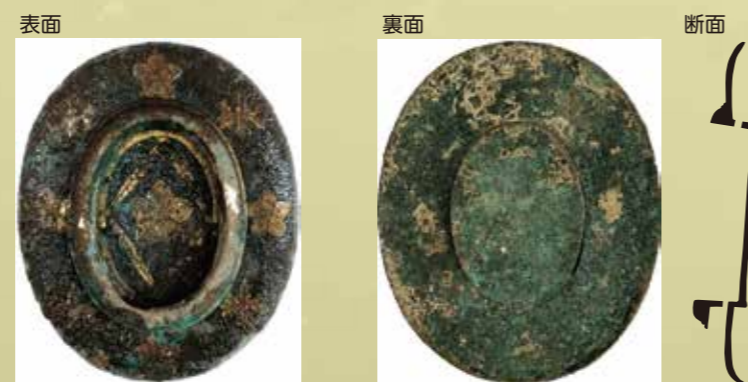
熊本地震の影響による地割れ（矢印部分）



明治時代の埋土（白枠部分）



襖引手復元図（原寸大）



平左衛門丸出土襖引手（S=1/2）

今回の調査では土中より青銅製の襖引手が1点出土しました。この引手を詳しく観察すると地金の表面には精緻な魚々子蒔きが施され、外周には金に毛彫りで描いた桔梗紋と桐紋を交互に巡らし、中央にはひときわ大きい桔梗紋を配すデザインです。この二つの紋の組合せは本妙寺に伝来する「桐桔梗折墨紋蒔絵膳」等でもみられ、加藤家が好んで用いたモチーフのようです。このように豪華な引手金具が、城内のどのような場所で使用されていたか想像がふくらみます。

監物櫓下石垣の復旧

国指定重要文化財監物櫓が建っている監物櫓下石垣は、令和3年(2021)7月から復旧工事を開始しました。この工事は崩落した石材を回収したうえで復旧に必要な最小限の範囲を解体し、石材調査・測量の後、地震によって生じた石垣の変状を修正しながら元の位置に石を積み直していくものです。

解体の結果、監物台樹木園側の石垣は昭和以降に監物櫓土台に貼りつけるように築かれたことが確認できました。新堀橋側の石垣は江戸時代に修理されたものと考えられます。

石垣は令和3年(2021)8月に積み直しを開始、9月に復旧工事を完了しました。監物櫓は翌10月から建物の復旧に着手しています。



崩落石材回収状況（令和3年7月12日）



石垣解体状況（令和3年8月4日）



石材調査状況（令和3年7月27日）



写真測量状況（令和3年7月16日）



石垣積み直し状況（令和3年9月14日）



復旧完了状況（令和3年10月8日）